



SPARC Enterprise T1000 サーバ プロダクトノート

Copyright © 2007, 2011 オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社 All rights reserved.

オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、オラクル社および富士通株式会社の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者からオラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、オラクル社および / またはその関連会社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Oracle and/or its affiliates and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.



免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関してオラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、オラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、オラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。

目次

はじめに vii

1. SPARC Enterprise T1000 サーバに関する重要な情報 1

サポートされているファームウェアとソフトウェアのバージョン 1

 システムファームウェアのアップデート 2

パッチ情報 2

 必須パッチ 2

 オプションカード用パッチ 2

既知の問題と回避方法 3

 /etc/system ファイルの必須エントリ 3

 ▼ /etc/system ファイルの必須エントリを確認し作成する手順 3

 ハードウェアの設置と保守に関する問題 4

 200V 電源を使用する場合の注意事項 4

 シャーシのカバーを取り外しにくい場合がある (CR 6376423) 4

 機能に関する一般的な問題 4

 RAID 機能 4

 Solaris Predictive Self-Healing (PSH) 機能 5

 サポートされている Sun Explorer ユーティリティのバージョン 5

 無効なメモリ構成を使用するとシステムの電源が入らない
 (CR 6300114) 5

ディスクドライブの書き込みキャッシュがデフォルトで有効になっている	5
▼ 書き込みキャッシュを無効にする手順	6
特定の問題と回避方法	8
vi エディタ 利用時に仮想コンソールがハングアップする (CR 6997177)	14
FMA サービスの起動が完了しない場合がある (CR 6886045)	15
マニュアルの正誤情報	17
『SPARC Enterprise T1000 サーバ設置計画マニュアル』	17
「通気に関する考慮事項」における記述の誤り	17
『Advanced Lights out Management (ALOM) CMT v1.3 ガイド』	18
日付の同期に関する記載内容の誤り	18
diag_trigger に関する記載の誤り	18

はじめに

本書では、SPARC Enterprise T1000 サーバに関する重要な情報、既知の問題、およびマニュアルの正誤情報について最新の情報を説明します。

注 – 本書に記載されている内容は、随時、最新の情報に更新されます。以下のウェブサイトにて最新版の有無を確認のうえ、SPARC Enterprise T1000 サーバをご使用ください。

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise T1000 サーバには Oracle Solaris オペレーティングシステム（以降、Solaris OS）および Sun Java Enterprise System がプレインストールされています。

インストレーションに関する重要な情報について、次の Web サイトを参照してください。

- 日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/notes/>

- グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/notes/>

注 – パッチの入手方法については、次のウェブサイトを参照してください。

<http://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/index.html>

マニュアルのダウンロード

SPARC Enterprise T1000 サーバのマニュアルは、以下のウェブサイトから参照できます。

- 日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

- グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

注 – 本書に記載されている情報は、SPARC Enterprise T1000 サーバのほかのマニュアルに記載されている情報よりも優先されます。

マニュアルへのフィードバック

本書に関するご意見、ご要望がございましたら、マニュアル番号、マニュアル名称および具体的な内容を以下の URL からご連絡ください。

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

SPARC Enterprise T1000 サーバに関する重要な情報

このプロダクトノートには、SPARC Enterprise T1000 サーバに関する重要な最新情報が記載されています。

本書は次の項で構成されています。

- 「サポートされているファームウェアとソフトウェアのバージョン」 (1 ページ)
- 「パッチ情報」 (2 ページ)
- 「既知の問題と回避方法」 (3 ページ)
- 「マニュアルの正誤情報」 (17 ページ)

注 - 本書に記載されている情報は、SPARC Enterprise T1000 サーバのほかのマニュアルに記載されている情報よりも優先されます。

サポートされているファームウェアとソフトウェアのバージョン

SPARC Enterprise T1000 サーバでサポートされるファームウェアとソフトウェアは次のバージョン以降です。

- Solaris 10 11/06 Operating System
- Sun Enterprise System ソフトウェア (Java ES 2005Q4)
- Advanced Lights Out Manager (ALOM) CMT 1.3.5 ソフトウェアおよび OpenBoot 4.25.3 ファームウェアを含む System Firmware 6.3.5

システムファームウェアのアップデート

システムファームウェアのアップデート方法の詳細は、『SPARC Enterprise T1000 サーバ インストールガイド』の付録 A を参照してください。flashupdate コマンドの詳細については、『Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.x ガイド』を参照してください。

注 - システムファームウェアをアップデートすると、ALOM CMT ソフトウェアと OpenBoot ファームウェアもアップデートされます。

パッチ情報

必須パッチ

現時点では、SPARC Enterprise T1000 サーバに対する必須パッチはありません。

注 - パッチに関する最新情報については、営業担当員または当社技術員にお問い合わせください。

オプションカード用パッチ

サーバにオプションカードを追加する場合は、それぞれのカード用のマニュアルと README ファイルを参照して、追加パッチが必要かどうか判断してください。

既知の問題と回避方法

この項では、SPARC Enterprise T1000 サーバに存在することが知られている問題について説明します。

/etc/system ファイルの必須エン트리

この項では、サーバの機能を最適化するため /etc/system ファイルに記載する必要がある必須エン 트리について説明します。

/etc/system ファイルには、次のエン 트리が必要です。

```
set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x2001
```

▼ /etc/system ファイルの必須エン 트리を確認し作成する手順

この手順は次の場合に実行します。

- サーバを配備する前に、必須エン 트리が存在していることを確認します。
- Solaris OS のインストールまたはアップデート後に、必須エン 트리を作成します。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. /etc/system ファイルに必須の行が存在するかどうかを確認します。

```
# more /etc/system
*ident "@(#)system      1.18 05/06/27 SMI" /* SVR4 1.5 */
*
* SYSTEM SPECIFICATION FILE
.
.
.
set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x2001
.
```

3. ファイルに必須エン 트리が存在しない場合は、これを追加します。
 - a. エディタを使用して /etc/system ファイルを編集し、エン 트리を追加します。
 - b. サーバをリブートします。

ハードウェアの設置と保守に関する問題

200V 電源を使用する場合の注意事項

ロック機能有プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に 15A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、15A の過電流保護を行ってください。ロック機能有プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。

ご使用のサーバの電源コードタイプについては、当社技術員にお問い合わせください。

シャーシのカバーを取り外しにくい場合がある (CR 6376423)

シャーシのカバーが非常に取り外しにくいことがあります。カバー上のロックボタンを強く押しすぎると、カバーの正面の端が曲がって妨げになる場合があります。

また、シャーシ側面のガasketにはゴム素材が使用されているため、カバーがスライドしにくい場合もあります。

カバーを取り外す際は、カバーのロックボタンを軽く押したまま、カバーを少し正面方向に押しつけてロックを外しやすくしてから、シャーシの背面方向に 12 mm (0.5 インチ) ほどカバーをスライドさせます。これで、カバーをシャーシから取り外せるようになります。

機能に関する一般的な問題

RAID 機能

SPARC Enterprise T1000 サーバには標準でハードウェアによる RAID 機能が搭載されていますが、弊社ではデータ保護や信頼性、保守性の観点からサポートしていません。

内蔵ディスクで RAID 機能を使用する場合には、以下のソフトウェアによる RAID 機能をご利用頂きますようお願い致します。

- PRIMECLUSTER GDS
- Solaris Volume Manager (Solaris OS に添付)
- VERITAS Storage Foundation

Solaris Predictive Self-Healing (PSH) 機能

Solaris PSH 機能は、本製品の今回のリリースでは完全には導入されていません。メッセージ ID FMD-8000-OW を持つ PSH メッセージが表示された場合は、<http://www.sun.com/msg/FMD-8000-0W> の説明を参照してください。

サポートされている Sun Explorer ユーティリティのバージョン

Sun Explorer 5.7 以降のデータ収集ユーティリティは、SPARC Enterprise T1000 サーバをサポートしていますが、このユーティリティのそれ以前のリリースはサポートしていません。プレイインストールされている Java ES パッケージから Sun Cluster ソフトウェアをインストールすると、以前のバージョンのユーティリティがシステムに自動的にインストールされることがあります。いずれかの Java ES ソフトウェアをインストールしたら、次のように入力して、Sun Explorer 製品の以前のバージョンがインストールされたかどうか判断してください。

```
# pkginfo -l SUNWexplo
```

以前のバージョンが存在する場合はアンインストールして、5.7 以降のバージョンをインストールしてください。

無効なメモリー構成を使用するとシステムの電源が入らない (CR 6300114)

メモリーバンク 0 に必要なメモリーが割り当てられていないと、システムの電源が入りません。バンク 0 のすべてのソケットに、常にメモリーを取り付けておく必要があります。

ディスクドライブの書き込みキャッシュがデフォルトで有効になっている

SPARC Enterprise T1000 サーバのディスクドライブでは、読み込みキャッシュと書き込みキャッシュの両方がデフォルトで有効になっています (この問題は SATA ドライブのみが対象です)。キャッシュを使用すると、ディスクドライブのリードとライトのパフォーマンスが向上します。しかし、システムの AC 電源が遮断されると、書き込みキャッシュ内のデータが失われることがあります。(AC 電源の消失は、読み込みキャッシュに対しては問題となりません。)

書き込みキャッシュを無効にする場合は、Solaris の `format -e` コマンドを使用してください。



注意 - この設定は、永続的に保存されるものではありません。システムがブートするたびに、書き込みキャッシュの設定をリセットする必要があります。

▼ 書き込みキャッシュを無効にする手順

1. Solaris 環境で次のように入力して、`format` のエキスパートモードに入ります。

```
# format -e
Searching for disks...done
AVAILABLE DISK SELECTIONS:
    0. c0t0d0 <ATA-HDS ...
```

2. ディスク番号 `0` を指定します。

```
Specify disk (enter its number): 0
selecting c0t0d0
...
```

`format` メニューが表示されます。

3. 次のように入力して、`cache` オプションを選択します。

```
format> cache
```

4. 次のように入力して、`write_cache` オプションを選択します。

```
cache> write_cache
WRITE_CACHE MENU:
...
```

5. 書き込みキャッシュの現在の設定を表示します。

```
write_cache> display
Write Cache is enabled
```

- 書き込みキャッシュを無効にします。

```
write_cache> disable  
This setting is valid until next reset only. It is not saved  
permanently.
```

- 新しい設定を確認します。

```
write_cache> display  
Write Cache is disabled
```

- write_cache モードを終了します。

```
write_cache> quit  
CACHE MENU:  
...
```

- cache モードを終了します。

```
cache> quit  
FORMAT MENU:  
...
```

- format コマンドを終了します。

```
format> quit
```

特定の問題と回避方法

表 1 に、既知の問題を示します。また、問題に対して実行可能な回避策も示しています。

表 1 特定の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6997177	ALOM の console コマンドを利用して仮想コンソールデバイス経由で Solaris OS にログインしたあと、vi 等のエディタを利用して大量のデータをファイルにカット&ペーストすると、その仮想コンソールがハングアップすることがあります。	注 - システムファームウェア 6.7.12 以降で修正済み。 なし。 Solaris OS 上のファイルに大量のデータをカット&ペーストしたい場合は TELNET や SSH 経由で、Solaris OS にログインして、該当のエディタを利用してください。 事象が発生した場合は、Solaris OS のシャットダウンコマンドでシステムを正常停止したあと、ALOM のリセット操作を実施してください。 実行例は、「 vi エディタ 利用時に仮想コンソールがハングアップする (CR 6997177) 」(14 ページ) を参照してください。

表 1 特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6949047	<p>shutdown -i5 コマンド実行後、Solaris OS は正常に終了しても、システム電源停止処理が完了しない場合があります。</p> <p>障害時の現象例：</p> <pre># shutdown -i5 -g0 -y</pre> <pre>Shutdown started. Thu May 19 10:32:49 JST 2011</pre> <pre>Changing to init state 5 - please wait Broadcast Message from root (console) on XXXXXX Thu May 19 10:32:49... THE SYSTEM erie0 IS BEING SHUT DOWN NOW !! ! Log off now or risk your files being damaged</pre> <pre># svc.startd: The system is coming down. Please wait. svc.startd: 106 system services are now being stopped. May 19 10:33:38 XXXXXX syslogd: going down on signal 15 svc.startd: The system is down. syncing file systems... done</pre>	<p>注 - システムファームウェア 6.7.12 以降で修正済み。</p> <p>以下の手順で回避できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. OS から、shutdown -i0 (init 0) コマンドを実行します。 2. ALOM から、poweroff コマンドを実行します。 <p>この事象が発生した場合は、ALOM から poweroff コマンドを実行して、復旧してください。</p>
6929662	<p>prtdiag 実行後、環境情報を表示する箇所で画面出力が停止することがあります。</p>	<p>注 - システムファームウェア 6.7.11 以降で修正済み。</p> <p>なし。</p> <p>ALOM リセット後、picld を再起動することにより復旧可能です。復旧しなかった場合には、Solaris OS を再起動させてください。</p>
6886045	<p>FMA (Fault Management Architecture) サービスの起動が完了しない場合があります。また、派生事象により Solaris OS の停止処理が終了しない場合があります。詳細は「FMA サービスの起動が完了しない場合がある (CR 6886045)」(15 ページ)を参照してください。</p>	<p>注 - システムファームウェア 6.7.8 以降で修正済み。</p> <p>なし。</p>
6861787	<p>システムファームウェアのダウンロードコマンド (sysfwdownload) で -u オプションを指定した場合、アップデート完了後にホストの自動起動が開始されません。</p>	<p>注 - システムファームウェア 6.7.8 以降で修正済み。</p> <p>なし。</p> <p>poweron コマンドを実行し、手動でホストを起動させてください。</p>

表 1 特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6835857	システム電源投入後、Solaris OS 起動時に "chip reset error!" のメッセージが出力されて、Solaris OS の起動に失敗することがあります。	注 - システムファームウェア 6.7.8 以降で修正済み。 システム電源切断後、約 180 秒あけてから、システム電源オンを実施してください。
6834363	Solaris OS 動作中にシステムコントローラの poweroff コマンドでシステム電源オフを指示すると、Solaris OS でパニックが発生し、システム電源が停止します。	注 - システムファームウェア 6.7.8 以降で修正済み。 shutdown コマンドにより Solaris OS を停止したあとで、システムコントローラのシステム電源オフ指示を実施してください。
6781815	ALOM リセット後、または本体装置の電源コード抜き差し後にサーバの電源を投入すると、OBP (OpenBoot PROM) の ok プロンプトでの、boot コマンドによる Solaris OS の起動に失敗する場合があります。以下に障害時の現象例を示します。 {0} ok boot ERROR: All device paths in boot-device have failed. (*) {0} ok OBP 環境変数 boot-device に設定されているデバイスパスが参照できず、Solaris OS の起動に失敗します。	注 - システムファームウェア 6.7.5 以降で修正済み。 ALOM リセット後、または本体装置の電源コード抜き差し後にサーバの電源を投入する際には、OBP 環境変数をご確認ください。特に、OBP 環境変数 use-nvramrc? を true に設定している場合、Solaris OS を起動する際には、ok プロンプトにおいて、use-nvramrc? が true に設定されていることを確認してから、boot コマンドを実行してください。以下に例を示します。 {0} ok printenv use-nvramrc? use-nvramrc? = true {0} ok
6757066	システムファームウェア 6.6.x 系以上から、システムファームウェア 6.3.x 系以下にファームウェアをダウングレードしたとき、showhost コマンドの出力結果に、ダウングレード前のファームウェアの情報が表示されてしまいます。実際にはダウングレード後のファームウェアで動作しているため、動作に影響はありません。表示を無視してください。 showhost 表示例： sc> showhost SPARC-Enterprise-T1000 System Firmware 6.3.12 2008/04/06 15:50 Host flash versions: Hypervisor 1.3.4 2007/03/28 06:03 OBP 4.25.12 2008/03/23 13:27 POST 4.25.12 2008/03/23 13:53 Hypervisor 1.6.7.a 2008/09/29 09:29 POST 4.29.0.a 2008/09/15 12:27 sc>	なし。

表 1 特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6676561	<p>Solaris OS 起動時に BAD TRAP が発生し、Solaris OS がパニックすることがあります。</p> <p>メッセージ例： panic[cpu12]/thread=300044434c0: BAD TRAP: type=31 rp=2a101c83320 addr=8 mmu_fsr=0 occurred in module "<unknown>" due to a NULL pointer dereference</p>	<p>注 - システムファームウェア 6.6.7 以降で修正済み。</p> <p>なし。</p>
6538717	<p>showfru コマンドで、Micron 社製の DIMM が Seagate 社製の DIMM として報告されます。たとえば、次のように報告されます。</p> <pre>[LE2]FRU_PROM at MB/CMP0/CH0/R0/D0/SEEPROM /SPD/Timestamp: MON APR 17 12:00:00 2006 /SPD/Description: DDR2 SDRAM, 1024 MB /SPD/Manufacture Location: /SPD/Vendor: Seagate <-- 正しくは Micron</pre>	<p>なし。</p>
6520334	<p>SSH が有効でない場合、ssh-keygen -l コマンドを実行して、次のエラーメッセージ生成するキーを表示します。</p> <pre>sc> ssh-keygen -l -t rsa Fingerprint file cant be opened error 380003</pre> <p>このエラーメッセージは、次のように読み替える必要があります。</p> <pre>ssh is not enabled.</pre>	<p>SSH を有効にします。</p>
6508432	<p>修正可能なエラー (CE; correctable error) が大量に発生する場合があります。これらのエラーは修正可能ですが、システムがパニックすることがあります。</p>	<p>この問題を回避するには、/etc/system に次のエント리를追加します。</p> <pre>set pci:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</pre> <p>「/etc/system ファイルの必須エントリ」(3 ページ) を参照してください。</p>
6500293 6502078	<p>boot -r の実行後に prtdiag -v コマンドを実行すると、SPARC Enterprise T1000 サーバおよび T2000 サーバ上のホストバスアダプタが表示されないことがあります。</p>	<p>再設定は行わずにシステムをリブートします。</p>
6472072	<p>ALOM の Break-D を実行してパニックダンプを取得すると、次のパニックメッセージが表示されます。</p> <pre>Unrecoverable hardware error.</pre>	<p>ハードウェアエラーは発生していません。このメッセージは無視しても問題ありません。</p>

表 1 特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6405226	ALOM CMT の console コマンドからホストにアクセスしているとき、コンソールの応答が遅くなる場合があります。	最適な応答性を確保するには、ホストが Solaris OS の起動を完了した直後にホストのネットワークインタフェースを介してホストにアクセスしてください。
6389912	電源投入またはシステムリセット中に、誤ったエラーメッセージがログに記録されます。 このエラーメッセージは、次のセグメントに含まれます。ereport.io.fire.pec.lup	このメッセージは無視してください。
6376423	シャーシのカバーが非常に外しにくいことがあります。	「シャーシのカバーを取り外しにくい場合がある (CR 6376423)」(4 ページ) を参照してください。
6372709	FMA の fltlog ファイルの最大サイズが制限されることがあります。	Solaris の logadm(1M) コマンドに対するデフォルトのログローテーションオプションを変更して、制限を解除してください。
6370233	Dtrace 機能が不正確な CPU xcall を返すことがあります。	安定 (Stable) したインタフェースではありませんが、Dtrace の fbt プロブを send_one_mondo および send_mondo_set に対して実行すると、回避方法になります。send_mondo_set については、cpuset_t 引数から、クロスコールを送信した CPU の数を検出します。
6368944	仮想コンソールは、114 文字を超えるペーストバッファを受け入れません。このため、wanboot の NVRAM パラメータである network-boot-arguments を設定できません。	114 文字以下に分けてカットアンドペーストを行うか、またはカットアンドペーストを使用しないでください。
6363820	disablecomponent コマンドと enablecomponent コマンドを繰り返し実行すると、showcomponent コマンドがハングします。	resetsc コマンドを使用して、ALOM CMT をリセットしてください。
6356449	ALOM CMT のリセット直後に poweron コマンドを発行すると、システムの電源が入りません。	スクリプトを使用して ALOM CMT をリセットし、システムの電源を投入する場合、poweron コマンドの前に 1 秒間の待機時間を挿入してください。
6348070	PCI デバイスに関する誤った Ereport エラーメッセージが生成されることがあります。	なし。
6346170	ALOM CMT の showfru コマンドが、THU JAN 01 00:00:00 1970 という初期時刻を表示します。	なし。 この日付の時刻表示は無視してください。
6346149	ネットワークの負荷が増加すると、システムネットワークポートの最大スループットが予想外に低下します。	なし。

表 1 特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6331819	SunVTS のメモリーまたは CPU テストが、システムリソースの不足によって失敗する場合があります。低メモリー構成で UltraSPARC T1 CMT CPU ベース (sun4v) のエントリレベルサーバで、SunVTS の機能テストのインスタンスが多数並列動作しているとき、SunVTS のテストはシステムリソースの不足によって失敗することがあります。たとえば、次のようなエラーメッセージが表示される場合があります。 System call fork failed; Resource temporarily unavailable	SunVTS のテストインスタンス数を減らすか、SunVTS の機能テストを個別に実行してください。さらに、CPU テスト用の遅延の値を増やすか、テストメモリー確保領域を増やすこともできます。
6318208	POST または OBP reset-all によって、「Host system has shut down」という警告が生成されます。	これは、reset-all コマンドの実行後に発生する正常な動作です。この場合のメッセージは、問題を示すものではありません。
6317382	OBP プロンプトから無効なコマンドまたは単語を入力すると、システムが誤ったエラーを返し、サーバがハングすることがあります。この動作は、Solaris から OBP プロンプトに入ったときにのみ発生します。誤ったエラーメッセージは次のとおりです。 ERROR: Last Trap	このメッセージは無視してください。コンソールがハングまたはパニックした場合、ALOM CMT の reset コマンドを使用してシステムをリセットしてください。
6314590	ALOM CMT の break コマンドと OpenBoot PROM の go コマンドを実行すると、システムがハングまたはパニックすることがあります。	コンソールがハングまたはパニックした場合、ALOM CMT の reset コマンドを使用してシステムをリセットしてください。
6310384	SunVTS の USB キーボードテスト (usbtest) が、サーバにキーボードが接続されていないときにキーボードが存在すると報告することがあります。	usbtest を実行しないでください。
6297813	ブート時に次のメッセージが表示されることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • svc.startd[7]: [ID 122153 daemon.warning] svc:/system/power:default: Method or service exit timed out.Killing contract 51. • svc.startd[7]: [ID 636263 daemon.warning] svc:/system/power:default: Method "/lib/svc/method/svc-power start" failed due to signal KILL. 	Solaris の電源管理システムが必要な場合は、電源管理を手動で再起動するか、またはサーバを再起動します。Solaris の電源管理システムが不要である場合は、処置は必要ありません。
なし	SPARC Enterprise T1000 サーバまたは T2000 サーバの ttya (Dsub 9 ピン) に次のデバイスが接続されている場合、Solaris OS をインストールできません。 <ul style="list-style-type: none"> • SH4124T (Dsub 9 ピン) • Cisco Catalyst 2960 (RJ-45) • SPARC Enterprise T2000 サーバ (Dsub 9 ピン) 	ttya (Dsub 9 ピン) に何も接続されていない状態で Solaris OS をインストールします。

表 1 特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
なし	<p>SPARC Enterprise T1000 サーバまたは T2000 サーバの ttya (Dsub 9 ピン) に次のデバイスが接続されている場合、ALOM コンソールにログインできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SH4124T (Dsub 9 ピン) • Cisco Catalyst 2960 (RJ-45) • SPARC Enterprise T2000 サーバ (Dsub 9 ピン) 	<p>ttya (Dsub 9 ピン) に何も接続されていない状態で ALOM コンソールにログインします。または、ALOM を使用するとき RJ-45 ケーブルを使用して ALOM に接続します。</p>

vi エディタ 利用時に仮想コンソールがハングアップする (CR 6997177)

この問題は、システムファームウェア 6.7.12 以降で修正済みです。

ALOM の console コマンドを利用して仮想コンソールデバイス経由で Solaris OS にログインしたあと、vi 等のエディタを利用して大量のデータをファイルにカット & ペーストすると、その仮想コンソールがハングアップすることがあります。

回避方法：

なし。Solaris OS 上のファイルに大量のデータをカット & ペーストしたい場合は TELNET や SSH 経由で、Solaris OS にログインして、該当のエディタを利用してください。

事象が発生した場合は、Solaris OS のシャットダウンコマンドでシステムを正常停止したあと、ALOM のリセット操作を実施してください。

システム停止実施例：

1. TELNET や SSH 経由で Solaris OS にログインし、shutdown -i5 コマンドでシステムを停止させます。

```
# shutdown -i5 -g0 -y
```

2. ALOM から、showplatform コマンドでシステム停止を確認します。

```
sc> showplatform
SUNW,SPARC-Enterprise-T2000
Chassis Serial Number: 0546NNN0PL

Domain Status
-----
S0      OS Standby
sc>
```

3. ALOM から、resetsc コマンドで ALOM をリセットします。

```
sc> resetsc

Are you sure you want to reset the SC [y/n]? y
```

FMA サービスの起動が完了しない場合がある (CR 6886045)

この問題は、システムファームウェア 6.7.8 以降で修正済みです。

FMA (Fault Management Architecture) サービスの起動が完了しない場合があります。また、派生事象により Solaris OS の停止処理が終了しない場合があります。

■ 現象 1

FMA サービスの起動が完了しない場合があります。svcs(1M) コマンドを実行し、FMA サービスがオフラインになっており、かつ、ps(1M) コマンド実行結果として、fmd プロセスが 2 つ存在する場合には、この現象が発生しています。

現象発生時のコマンド出力例：

```
# svcs svc:/system/fmd:default
STATE          STIME          FMRI
offline*       14:44:42      svc:/system/fmd:default

# ps -ef | grep fmd
root  665   606   0 14:44:44 ?                0:00 /usr/lib/fm/fmd/fmd
root  606     7   0 14:44:43 ?                0:00 /usr/lib/fm/fmd/fmd
root 10898  476   0 08:58:47 console 0:00 grep fmd
```

■ 現象 2

現象 1 が発生した状態で、shutdown(1M)、init(1M) コマンドを使用したシステムの停止、再起動を実行した際に、Solaris OS の停止処理が途中で停止する場合があります。

shutdown -i0 オプション指定時の例:

```
# /usr/sbin/shutdown -y -i0 -g0

Shutdown started.      2009年10月22日(木) 18時21分03秒 JST

Changing to init state 6 - please wait
Broadcast Message from root (console) on xxxxx (木) 10月 22
18:21:...
THE SYSTEM xxxxx IS BEING SHUT DOWN NOW !!!
Log off now or risk your files being damaged

<省略>

svc.startd: The system is coming down. Please wait.
svc.startd: 105 system services are now being stopped.
Oct 22 18:22:13 xxxxx syslogd: going down on signal 15

<-- ここで処理が停止し、okプロンプトに移行しない。
```

この現象を復旧させるためには、強制パニックによるシステムの再起動が必要です。復旧しない場合は、ALOM をリセットしてください。

回避方法 : なし。

マニュアルの正誤情報

『SPARC Enterprise T1000 サーバ設置計画マニュアル』

「通気に関する考慮事項」における記述の誤り

「通気に関する考慮事項」における開口部に関する以下の記述には誤りがあります。

- サーバの吸気および排気の両方に使用されるキャビネットドアなどの通気口には、それぞれ 215 cm^2 (33.3 平方インチ) 以上の開口部があることを確認してください。これは、サーバの正面側および背面側の面 ($445 \text{ mm} \times 81 \text{ mm} = 17.5 \text{ インチ} \times 3.2 \text{ インチ}$) に、その 60% にあたる開口部有孔パターンがあることと等しくなります。開口部がより制限された場合のその他の影響については、ユーザー自身で評価してください。

正しい内容は次のとおりです。

- サーバの吸気および排気の両方に使用されるキャビネットドアなどの通気口には、それぞれ 110 cm^2 (17.6 平方インチ) 以上の開口部があることを確認してください。これは、サーバの正面側および背面側の面 ($425 \text{ mm} \times 43 \text{ mm} = 16.8 \text{ インチ} \times 1.75 \text{ インチ}$) に、その 60% にあたる開口部有孔パターンがあることと等しくなります。開口部がより制限された場合のその他の影響については、ユーザー自身で評価してください。

『Advanced Lights out Management (ALOM) CMT v1.3 ガイド』

日付の同期に関する記載内容の誤り

ALOM CMT ガイドでの `showdate` コマンドの記載内容に誤りがあります。誤っている内容は次のとおりです。

ALOM CMT の日付を表示します。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されますが、ALOM CMT の時刻は現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。

正しい内容は次のとおりです。

ALOM CMT の日付を表示します。ALOM CMT の時刻は、現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。

diag_trigger に関する記載の誤り

「`setsc` コマンドを使用して `diag_trigger` 変数を変更する」では、以下の説明が不足しています。

Solaris OS の `shutdown` コマンドによる Solaris OS 再起動、または OpenBoot PROM 上でのリセットでは、診断 (POST) は行われません。POST を実行したい場合は、ALOM から、システムのリセット (`reset`)、またはシステム電源オフ / オン (`poweroff`、`poweron`) を行う必要があります。